

基本計画案にかかる関係課からの意見

戦略（案）全体について	意見
	<p>No.1. 全体に、八戸ならではの・八戸らしさを感じず、他都市にもそのまま当てはまる計画に見える。これまでの多文化推進や、文化のまちづくりビジョンからのつながりがなく、唐突にこの計画が出てきているという感じを受ける。これまでの多文化推進や文化のまちづくりビジョンのもとで、市でどのような取組がなされ、現在どの程度のところまで来ているのかを分析した上で、将来に向けてどの方向に伸ばしていくべきか、という視点で構成し、従来の文化政策の流れを踏まえた計画とする必要があるのではないか。</p> <p>【新美術館建設推進室】</p>
	<p>No.2. 対象分野について、食文化や国際交流、伝統工芸、文化財など、かなり幅広く網羅しているため、計画が総花的に見える。対象分野をどこまでにするかという問題は、過去に多文化推進提案書や文化のまちづくりビジョンを策定した際にも議論となり、ある程度絞り込んだ経緯がある。ミニ総合計画のような計画をつくるよりは、より実効性のある計画を策定した方がいいのではないか。そのためにも、多文化推進や文化のまちづくりビジョンの内容を踏まえて八戸の強みを整理し、伸ばすところをもう少し絞り込んで牽引役とすることで、全体を引き上げていくような視点が必要でないかと考える。また、そのような視点で計画を策定することで、八戸らしさを打ち出せると思う。</p> <p>【新美術館建設推進室】</p>
	<p>No.3. 「基本的施策に照らした際の課題」→「今後のあり方の整理」という流れになっているが、これだと、現状で不足している部分・行き届いていない部分・あまり成長が見込めない部分について人もカネも投資して充実させていく、という整理になり、今後の財政状況等を考えると、達成が難しい計画になるのではないか。課題を列挙するだけでなく、強みや成長が見込めそ</p>

	<p>うな分野を整理した上で、どこを伸ばすか、どこを充足させていくかという視点で整理した方が、より実効性のある計画になると思う。</p> <p>【新美術館建設推進室】</p>
No.4.	<p>目指す都市像が4つ、戦略6つは計画に対して多すぎる印象がある(さらに、1つの戦略に3~4の施策がぶら下がっているため、全体構成が複雑な印象を受ける)。計画を見ると、例えば戦略3で「社会包摂の推進」とある一方で、戦略1の施策Aにも「社会包摂機能」という表現がある。目指す都市の姿を1~2、戦略は3つくらいにまとめられるのではないかと。もう少しスッキリした計画の方が、やるべき事が明確になり、理解しやすくなると思う。</p> <p>【新美術館建設推進室】</p>
No.5.	<p>骨格の中で、戦略1~6がどの目指す姿になるために行うのか結びついていない。目指す姿の都市になったら結局八戸はどんな都市になるということか(それが本当の目指す姿なのか)</p> <p>【新美術館建設推進室】</p>
No.6.	<p>「今後のあり方の整理」の記載内容が抽象的で、具体的にどうするのかが見えにくい。「3. ~課題等」の分析が不十分なのではないか。実態や現場が抱えている具体的問題点が思い浮かべられているのか(リンクされているのか)不安がある。</p> <p>【新美術館建設推進室】</p>
No.7.	<p>文章での説明が無く、どのような目的に沿った計画にしたらいかがかわりにくい。【新美術館建設推進室】</p>
No.8.	<p>ブックセンター、(マチニフ)新美術館ができ、文化施設が集積・変化してきたことから、これからの各文化施設の役割分担についても言及があったほうがよいのではないかと。(それら文化施設全体+まち文の計画・実施による、あるべき八戸の姿を目指していくことになるのではないかと)</p> <p>【新美術館建設推進室】</p>

No.9.	観光、まちづくり、福祉などの異分野との有機的な連携が求められているとのことなので、単なる連携ではなく、文化芸術との連携による効用などについて、他都市の具体例なども含めて計画に明記することで、広く浸透を図って欲しい。【観光課】
No.10.	資料文中の各戦略に、「南部弁」や「衣食住」など個別具体的な表記があるが唐突であると感じる。地域固有の文化は、もっと多種多様であり、戦略部分で表記するには限定し過ぎているので、もう少し抽象的な表現の方がよいのではないかと感じる。 (例えば、「南部弁」や「衣食住」を「生活文化」にするなど) 【観光課】
No.11.	市民により、「文化芸術」と聞いてイメージする対象がさまざまなので、計画策定の際は、本計画で扱う「文化芸術」の対象を明確にした方がよいのではないかと感じる。【観光課】
No.12.	専門的な用語の解説や、混在している用語の整理が必要。 ・「国際文化交流」や「社会包摂」の意義の解説が必要 ・「観光資源と観光コンテンツ」が混在しているので表現統一 【観光課】
No.13.	文化芸術を観光資源として利活用するのであれば、八戸市に受け継がれている伝統芸能や生活文化などに対する市民の誇りや愛着を醸成するとともに、他都市に勝る価値があるものであると、市民に広く認識してもらう必要があるため、本計画内において、他都市の文化と比較するなど、当市の文化芸術の優位性や差異を「見える化」して欲しい。【観光課】
No.14.	多文化共生と国際文化交流は、一般的に同じ分野で扱われていると認識しているが、素案では敢えて戦略を分けているため、それぞれの意義を明確にした方がよい。【観光課】
No.15.	戦略2について、戦略のひとつとすることに違和感あり。戦略は「目指すべき都市像」にむけたものと考えているが、戦略2は、できた芸術文化都市をベースとした地域づくりや観光政策を盛り込んでいるのではないかと感じられ、ネーミングもわかりづらい。【こども未来課】

No.16.	幅広い事項を盛り込まねばならないことは理解するが、今後5年間のうちに八戸市で起こること（例：新美術館開館、八戸三社大祭 300 周年など）を踏まえて、当該期間内にどのように文化芸術振興していくかを、または 10 年後くらいのあるべき姿のイメージを、計画に盛り込んだ方が良いのではないかと。 （「資料 1」の八戸市が目指す都市の姿が、どこの都市も目指しているだろうと感じる。）【子育て支援課】
No.17.	「本のまち八戸」が戦略 1 の中では、個別具体的事項過ぎるのではないかと。【子育て支援課】
No.18.	市民には「本のまち八戸（構想）」が、八戸ブックセンターまで作って、さらにどのように生活に寄り添っていくかが非常に分かりにくい構想となっていると感じるので、市としてのしつかりとした考え方を前面に出すべきではないかと。 【子育て支援課】
No.19.	戦略 6 をメインの柱にして、はっち、マチニワ、ブックセンター、新美術館を中心としたプラットフォームと情報配信を、官民乗り入れで行うことを提案する。【教育指導課】
No.20.	戦略 1 ～ 5 は、今ある事業を「見える化」するだけでよいと考える。各部・課の所管でバラバラにやっていることを、相互に知ることが第一歩だと思う。【教育指導課】
No.21.	本計画が市の政策（施策）としてどのような位置づけになるのかを明示してほしい。他の計画との関連などを含めて。 【社会教育課】
No.22.	戦略を段階的に増やしてはどうか。【社会教育課】
No.23.	目指す姿が四つもあると大変、かつぼやけてしまう。キャッチーな一言に集約できないか。例）「多文化創造都市、〇〇のまち はちのへ」【博物館】
No.24.	博物館の体験学習・出前講座が戦略 5 C に分類されているが、戦略 1 C との区分がよくわからない。また、学芸員という職業のキャリア教育という側面も併せ持つ。【博物館】

戦略 1.文化芸術の創造・ 発展・継承と教育		意見
1) 基本的な施策について	No.25.	※意見無し
2) 基本的施策に照らした 際の課題等について	No.26.	戦略 1-B のNo.1 に「(仮称) 八戸市歴史文化基本構想」とあるが、「(仮称) 八戸市文化財保存活用地域計画」に改めたほうがよいのではないかと。【是川縄文館】
3) 今後のあり方の整理に ついて	No.27.	作品等のアーカイブ化について。「積極的な活用」とは、アーカイブそのものの活用なのか? 「美術館・博物館の収蔵品のアーカイブ化」について意味するところがわからない。【新美術館建設推進室】
	No.28.	施策 A において、中心市街地の各公共施設の目的、役割、位置づけ等を明確にすべきと考える。【観光課】

戦略2.文化芸術による イノベーション		意見
1) 基本的な施策について	No.29.	戦略名が『文化芸術「による」イノベーション』の中で、施策Aのタイトルが『文化「の」イノベーション』となっているものの、内容が文化による異分野への波及といった文化「による」イノベーションなど、混在しているように感じる。観光課としては、文化「による」地域への経済的・投資的効用の増進を図ることが、持続可能な観光振興に繋がると考えていることから、戦略2では後者を希望。【観光課】
	No.30.	施策Aのここにある「投資」は誰が誰にする投資か？【観光課】
	No.31.	施策Cの「好循環の構築を目指す」について、計画期間内の5ヶ年での構築は期間が短すぎる。「好循環の構築の可能性について検討する」程度で良いかと思われる。【観光課】
	No.32.	施策Cについて、外に向けるだけでなく、市民も注目するようなコンテンツの開発を行う必要があるのではないか。地元の意識改革が必要と考える。【社会教育課】
	2) 基本的施策に照らした 際の課題等について	No.33.
No.34.		文化芸術のイノベーションを起こすのも、文化に関する産業やマーケットを育成するのも、アーティストやクリエイターだけではなく、市民が大きな役割を果たすのではないかと感じる。文化芸術振興に厳しい目だけではなく、理解をもつ市民をさらに増やさねばならないという視点について、触れる必要があると感じる。【子育て支援課】
3) 今後のあり方の整理について	No.35.	特に施策Bの食文化について、観光などの分野に向けた産業やマーケットの育成の言い方だけではなく、その文化の歴史・教育の上で今の時代の変化や自分の生活に対して必要なイノベーションを重視することは大事だと思う。地元の人には、文化の個人的な価値を意識していないとイノベーションすることが中々出来ないのではと感じる。

	<p>そして、とても外国人っぽい意見かもしれないけど、環境を守ることや地球温暖化の効果に対して、食べ物も含めて海で生活している人々だからこそ、時代の問題を意識して、自分が大事にしている文化が時代に合わせて進化していけることも重視してほしい。【市民連携推進課<国際交流員 意見>】</p>
No.36.	<p>施策Cについて、計画期間の5ヶ年で観光商品化を図るのは難しいので、第1期計画期間中は、「既存の文化芸術が観光資源となり得るのか？」という検証であったり、「異なる文化を組み合わせることで観光資源化を図る」などの手法の定着など、本市として「取組みに着手していく」程度の表現が現実的であると感じる。【観光課】</p>
No.37.	<p>市外で起こっている文化芸術の新たな動向に、市民がアクティブに触れることを支援する視点や考え方を盛り込むべきと感じる。素案では、市内にもたらされる外からの刺激に頼りすぎで、多様性を確保できないのではないかと感じる。【子育て支援課】</p>
No.38.	<p>施策3について、文化や文化財で稼いだ収益を市、あるいは関係団体・個人に還元し、保護に資する行為に充てることは可能なのか。団体や個人に保護に充てるように強制できるのか。また、一部の文化・文化財で稼いだ収益を全体に再分配することは可能か。【社会教育課】</p>

戦略3.多様な価値観の形成

と社会包摂の推進

意見

1) 基本的な施策について

- No.39. 施策 A と B は一つにまとめてもいいのではないか。この計画は、外国人受入政策計画ではないので、「多文化共生の地域づくりの推進」を項目立てまでする必要はなく、むしろ、全ての人にとって文化芸術へのアクセス(施策 A)がよくなれば、共生のまちづくり推進への好影響が期待できる(施策 B)という考え方で、施策 A に含めていいように思う。
【市民連携推進課】
- No.40. 戦略3と4は、同じ「社会包摂」「多様な人のアクセス」としてまとめてもよいのではないか。【新美術館建設推進室】
- No.41. 戦略3において、三社大祭やえんぶりと言った「祭り」を社会包摂機能に特化して期待していることに違和感を感じる。むしろ福祉的な事業や取組みを優先するなど、複合的な手法で社会包摂を実現するような表現にした方がよいと感じる。
【観光課】
- No.42. 施策Cについて、時代の変化、少子高齢化により、文化の社会包摂機能も求められるレベルがあると思う。その機能は自発的に形成され、変容していくものと考えられるので、施策として行っていく必要があるか疑問がある。えんぶり・三社大祭以外、その機能をもつ文化がどれだけあるか。
【社会教育課】

2) 基本的施策に照らした
際の課題等について

- No.43. 施策 A については、「外国人住民向けのプログラム不足」とあるが、外国人住民はここで何の活動ができるのか知らない、情報の不足の状態にあると思われ、「やりたいことがない(プログラムの不足)」ではないと推測する。
【市民連携推進課】

3) 今後のあり方の整理に
ついて

- No.44. 施策 A については、外国人住民も含めてほしい。
【市民連携推進課】
- No.45. 施策 B については、八戸国際交流協会は市とは別団体で事業計画や予算の決定権は市が持っている訳ではないことから、

	協会の事業方針にまで踏み込むのは適当ではない。文化芸術を充実させるため、国際交流関係団体と連携するといったような感じが適当と思われる。【市民連携推進課】
No.46.	施策 A において、障がい者のために「社会包摂機能」の充実が記載されているが、文化芸術施設が市民や来街者に対して一定時間過ごすことができる場として整備・提供（使用）され、さらに文化芸術に触れる、親しむことができるという考え方も盛り込むべきと感じる。【子育て支援課】
No.47.	「基本的な施策の施策 A」の内容に、「子供から高齢者まで」の文言や、「現在取り組んでいる事業」に子供や高齢者に関連した事業があるが、「今後のあり方の整理」には、「障がい者の～のため」と限定的に記載されている。対象を広く捉えるために、個別の表現ではないほうが良いのではないかと感じる。【障がい福祉課】
No.48.	文化政策の必要性を問われれば、健常者向けと同様に、障がい者向けの文化政策も「必要」ということになる。 ただし、現在目立った文化的活動をしている団体は少なく、だからこそ必要だということにもなるが、障がい者の世界で文化活動をするという土壌、雰囲気を感じられないのが現状である。 文化政策の必要性は、そういう障がい者達を外に出して、社会参加させる機会の一環として「必要」と考える。 <参考> 民間の取組 ※補助金を支出している団体を中心に調査 ・世界自閉症啓発デーイベント（八戸市自閉症児(者)親の会） ・世界ダウン症の日関連イベント in 八戸（八戸小鳩会が共催） ・七夕手話コーラス（八戸市ろうあ協会） ・ボランティアフェスティバル（八戸市肢体障害者福祉会） ・マッサージ奉仕活動（八戸市視力障害者福祉会） 【障がい福祉課】

No.49. 取組実施の可能性については、現在の組織体制で福祉部が受け持つというのは不可能かと思われる。
福祉部内に置くかはともかく、障がい者の文化芸術振興のための部署と、活動に係る予算が必要と考える。
【障がい福祉課】

戦略 4.国際文化交流の推進		意見
1) 基本的な施策について	No.50.	施策 C について、ここに「質の高い日本語教育の提供」が項目立てされている理由がわからない (2)、(3) についても同じ)。【市民連携推進課】
	No.51.	施策 A について、国際文化「交流」という位なので、海外の芸術家を受け入れるだけでなく、本市在住の芸術家や文化芸術関係者を海外に派遣するような取り組みがあった方がよいと感じる。【観光課】
2) 基本的施策に照らした際の課題等について	No.52.	今年度、環境省の「国立公園多言語解説整備支援事業」を活用し、多言語化に取り組む予定。【観光課】
	No.53.	施策 A について、広範囲の地域、幅広い年齢層の外国人の意見を反映させた、ニーズの把握が十分にできていないと感じる。【社会教育課】
3) 今後のあり方の整理について	No.54.	この戦略は観光の重視と訪日外国人に向けているイメージだが、日本人と外国人が普通の生活の中でも交流できるような企画が欲しい。(日本人の芸術家や学生を海外に行かせるプログラムなど) 戦略の目的や中長期的な企画が充実していないと感じる。 【市民連携推進課<国際交流員 意見>】
	No.55.	施策 A の国立公園の魅力を国内外へ発信することと文化芸術の振興との関係性があるのであれば、計画内で明確にして欲しい。【観光課】
	No.56.	施策 A について、マーケティング調査・分析を通じ、ニーズに合った適切な事業を選択・展開するといったような書きぶりの方がよいのではないか。具体的な名称が多過ぎると感じる。【社会教育課】

<p>1) 基本的な施策について</p>	<p>No.57. 施策Bの「文化ボランティアの養成」という表現が適切かどうか。行政がボランティアを養成するという視点ではなく、旧美術館のハビボ会や縄文館のボランティアといった自立自営の仕組みがある(あった)実績や、施設運営や事業に市民が能動的に関われる、新美術館の「アートファーマー」という仕組みを導入するといった、これまでの取り組みを踏まえて、「文化芸術を支える市民の新しい関わりの推進」のような表現の方がよいのではないか。八戸は、はっちのボランティアスタッフなど、積極的にこうした活動に参加する人が多い印象で、また、自主的に勉強会を開催するなどされており、わざわざ「養成」する必要はないと感じる。 【新美術館建設推進室】</p>
<p>2) 基本的施策に照らした際の課題等について</p>	<p>No.58. 施策Aについて、個人だけでなく、団体も入れるべきではないか。(団体として成立している芸能等もあるため) 【社会教育課】</p>
<p>3) 今後のあり方の整理について</p>	<p>No.59. 観光課事業「正調八戸小唄保存事業」は既に事業終了。 【観光課】</p> <p>No.60. 施策Aについて、必要とされる人材は誰が決めるのか。選んだ人材≒保存すべき文化と捉えられる恐れがあるのではないか。【社会教育課】</p>

戦略6.連携・協働を推進するプラットフォームづくり		意見
1) 基本的な施策について	No.61.	過去に策定したアートのまちづくり提案書、文化ビジョンにおいても、広報については課題としているが、具体的取組は足りていないと感じる。施設やイベント単体の広報ではなく、市全体の文化事業・文化政策の広報プラットフォームや戦略について、現在の「アート情報」の次の段階を模索してもよいのではないか。 【新美術館建設推進室】
2) 基本的施策に照らした際の課題等について	No.62.	※意見無し
3) 今後のあり方の整理について	No.63.	※意見無し

<p>No.64.</p>	<p>「在留外国人」「外国人居住者」など言葉が入り混じっている。 多文化共生分野では「外国人住民」と表現されることが多い。 総務省策定の「多文化共生プラン」を参考にしてはどうか。 【市民連携推進課】</p>
<p>No.65.</p>	<p>推進基本計画の成功をどうやって計るか気になる。 行動計画も期待している。 【市民連携推進課<国際交流員 意見>】</p>
<p>No.66.</p>	<p>伝統工芸について、販売促進や普及は、国では経産省が管轄であるが、八戸では文化事業として取り組むということでよいのか。 【新美術館建設推進室】</p>
<p>No.67.</p>	<p>戦略3は、子供から高齢者、障がい者等が対象とされ、事業には鷗盟大学運営事業が記載されている。予算規模や対象者数、主体的に事業を運営している点からも高齢福祉課を関係課に加えるべきである。【障がい福祉課】</p>
<p>No.68.</p>	<p>文化芸術の最上位計画に位置付けられると思うので、現在進行中または策定作業中の他の文化芸術関係の計画との整合性が図れるように検討すべき。また、もし指標設定・評価もしていくのであれば、他の計画で実施しているものと統一した回答ができるように、今後のあり方を整理してほしい。（評価の方法で、数値化が難しいものもあるため、「第2期八戸市教育振興基本計画」の教育事務の点検評価などを参考に）。【是川縄文館】</p>